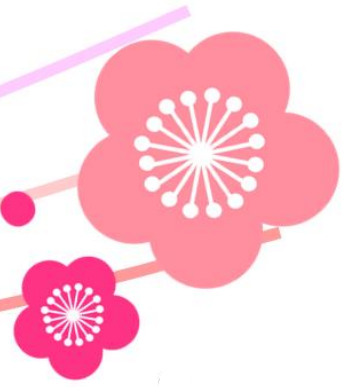


はるかぜの ネットワーク



新春の
お慶びも
申し上げます



皆様の
健康とご多幸を
お祈り申し上げます。

平成三十年 元旦



(写真掲載につきましては、ご本人・ご家族のご了承を得ています)

理事長 新年のご挨拶

あけましておめでとうございます。

平成 30 年、来年は天皇陛下が退位され年号が変わることが決まっていますので、本当に区切りの年という感じがします。それに加え私自身も 65 歳になる年で、高齢者の仲間入りをし、いよいよ介護保険証が送ってくる年になります。あらためて“思えば遠くへ来たもんだ”という心境ですが、今はむしろこれからどうなっていくだろうということが気になって仕方ありません。

医療界では 4 月に診療報酬・介護報酬同時改定という大きな変化が待ち受けています。団塊の世代がすべて 75 歳以上の後期高齢者となる 2025 年に向けて、医療保険・介護保険の提供体制の見直しが行われます。超高齢少子社会が確実に到来することを踏まえて、これから訪れる難局を乗り切るための大きな柱が地域包括ケアシステムの構築ということです。住み慣れた地域で最期まで自分らしく暮らし続けることができるようにするために、住民はもとより医療・介護関係者、行政が協力し合い地域づくりに努めることが求められています。ただ、どう動けばよいのかという具体策がはっきりせず、医療機関もその対応に苦慮しているのが現状です。

あっという間に 2 年近く経ってしまいましたが、熊本地震は本当に大変でした。全く予期していなかった状況で、何ら備えが出来ていなかったのにも関わらず、多くの人のおかげでどうにか難局を乗り切ってきました。あらためて地域のつながり、普段の関係の大切さを感じた方がほとんどではないでしょうか。いざとなったら近所の助け合いが一番で、日頃のお互いに良く知っている関係が何よりも有難かったと今でも多くの方が話されます。そうなんです。まさにこの体験を生かし、街づくり、地域づくりすることが、地域包括ケアそのものなのです。あまりむずかしく考えないで、住んで楽しい、そして安心という街を目指していきましょう。

春日クリニックは新しい建物に移って、今年で 10 年目を迎えます。ずっと看つづけるをモットーに、安心して住み続けることを支えるネットワーク作りを行ってきました。たとえ病気がひどくなり、状態が中重度になっても家で生活できるしくみが、現在すでに稼働しており、まさに地域包括ケアを支えるしくみそのものとの評価も頂いております。地域の皆さんの生活を支えるために地道に取り組んできたことが、国の目指す方向と一致していることは、職員一同にとっても、とても大きな励みになっています。これからもなくてはならない春日クリニックであり続けるために、さらに頑張ってまいりますので、これまで以上のご理解とご協力をよろしくお願いいたします。



医療法人社団 清心会
理事長 清田 武俊

院長 年頭の所感



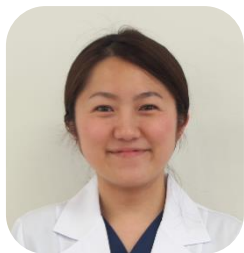
平成30年は4月に医療・介護保険同時改定があり、大きく流れが変わります。これからますます赤ちゃんより亡くなる人が多くなるという超高齢少子社会、労働人口減少を視野においた高齢者対策そのものです。そんな現実を直視しているからこそ私たちは地道に地域の医療に貢献できるよう取り組んできました。

さて当院に秘密のパワースポット（勝手に子宝地蔵と呼んでます）があることをご存知でしょうか。当院では毎年、職員に数名の赤ちゃんが生まれ、今年はすでに4人の赤ちゃんが誕生予定です。妊娠、出産、子育ては仕事をする女性には本当に大変です。子供の突然の病気をスタッフ全員でやりくりして支え合い、迷惑をかけないように精一杯カバーするスタッフ、いつかは自分が支える側になろうと努力するスタッフ、お互いに思いやることは医療の本質そのものです。

“おりひめの会”も皆様に支えられ、今年で18年目を迎えます。この会は女性の力で家庭（介護、孫の世話など）、地域、社会を明るくし、自分自身の人生も謳歌しようと続いている交流会です。今年もしっかり取り組んでいきます。

熱く燃えるスタッフは患者さんとの長い付き合いの中で、何を大切にどのような人生でありたいとお考えなのか、しっかりと受け止めていきたいと考えています。強い信頼関係を築きながら、人生の最期までずっと伴走者でありたいというのが私たちの思いです。今年も走り続ける春日クリニックグループをどうぞよろしくお願いいたします。

春日クリニック 院長 清田 真由美



あけましておめでとうございます。まさに「激動の時代」。2018年も大きな変化が起こってくる予感がしています。世の中が大きく変わっていく中、幸せな人生を送るために、大切なことは、逆にシンプルに、鮮明になってきたように感じています。いかに自分の軸を持ち、「今あるもの」に目を向けられるか、それが大切なことではないかと思います。先を憂えず、過去を悔やまず、「今」に意識を集中させることは心の健康にもつながります。1日はまさに人生の1ページ、毎日の幸せが幸せな人生を実現します。「当たり前」なんて一つもない、すべては「有り難きこと」という気づきを大切に、感謝を忘れず日々を重ねていきたいです。皆様が健康で「今日もいい一日だった」と思えるお手伝いができればと思います。今年もよろしくお願いいたします。

上野 真理子

昨年は自国第一主義を掲げる米大統領の誕生、各地で続発するテロ、北朝鮮による弾道ミサイル発射や核実験強行など世界が不穏な空気に包まれる中、羽生善治さんの永世七冠達成の偉業は久々に心が躍るニュースでした。

私は羽生さんが前人未踏のこの快挙に際してなお、「将棋の本質がまだまだわかっていない」と述べられたことに驚きました。15歳でプロ棋士デビューして以来、常に第一線で活躍されている羽生さん。他分野のトップアスリートと同様、加齢と戦ってこられたと思います。ふつうは障壁と考える加齢という現実を受け入れ、可能性を諦めず、年を重ねることで得たものを駆使し、挑戦し続けるその姿勢は、年代や立場を超えて勇気を与えてくれます。私も年齢を言い訳にせず、これからの自分はどのようにありたいのか、そのために今何をすべきかを考え、行動していきたいと思っています。



小出 香子